

会 議 録

会議名	第1回 宇都宮駅東口地区整備推進懇談会	
開催日時	平成21年11月30日(月) 午後3時～午後5時	
開催場所	宇都宮市役所14A会議室(市役所14階)	
出席者	委員	石井清, 古池弘隆, 林香君, 柿沼賢, 須賀英之, 森本眞司, 安藤正知, 中津正修, 大森郁雄, 國谷渡, 今井源一, 南木成夫, 荻美紀, 酒井誠 (14名)
	事務局	総合政策部長, 総合政策部次長, 駅東口整備推進室長, ほか6名
公開・非公開	公開(本会議において会議の公開を決定)	
傍聴者	0名(報道関係者10名, 関係者1名)	
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 委嘱状の交付 3 市長挨拶 4 委員, 事務局紹介 5 宇都宮駅東口地区整備推進懇談会の設置 6 会長の選任 7 会議の公開 8 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 宇都宮駅東口地区整備事業の経緯等について (2) 駅東口地区のまちづくりについて 9 その他 10 閉 会 	
会議の結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 古池委員を会長に選任する。 2 会議は公開とする。 3 次回は平成22年2月下旬頃開催する。 	
発 言 要 旨		
会長の選任		
柿沼仮座長	懇談会設置要領第4条で, 会長は委員により互選することとなっている。何か意見はないか。	
南木委員	本市のまちづくりに精通されており, また, 経験豊富な宇都宮共和大学教授古池委員を会長に推薦したい。	
柿沼仮座長	ただいま, 南木委員から古池弘隆委員を会長にとの推薦があった。他にご意見等はないか。なければ, 当懇談会の会長に, 宇都宮共和大学教授の古池委員を選任することよろしいか。	
委員	異議なし。	
柿沼仮座長	それでは, 古池委員に会長をお願いします。	
会議の公開について		

事務局	宇都宮市では「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき会議を運営している。会議は原則公開としており、非公開の場合はその理由を明らかにしなければならない。また、公開・非公開に関わらず、会議録を公開しホームページ等で公開する必要がある。当懇談会についても、委員の皆さまで会議の公開・非公開についてご議論願いたい。
古池座長	当懇談会については、宇都宮駅東口地区の整備を進めるにあたり、市民のみなさまにも広く情報を開示しながら取り組んでいくことが必要であることから、原則公開にしたいと思うがいかがか。
委員	異議なし。
古池座長	では、会議を公開とする。
議事（１）宇都宮駅東口地区整備事業の経緯等について	
古池座長	パワーポイントの最後のスライドにあった事業スケジュールの中で、赤い枠と青い枠があったがこの違いは何か。
事務局	事業が完了したものと、今後予定されていたものとを色分けした。
議事（２）駅東口地区のまちづくりについて	
森本委員	資料には市 100 億円、民間 200 億円の合計 300 億の投資を行う予定と書いてあるが、事業が止まったためにどれだけの赤字がでていくのか、また、そのためにはどれだけ早くやるべきなのかといったイメージ的なものでも教えていただければ、検討のフローも見えてくる。 暫定利用については、民間と 40 か月契約しているのなら休閑地はそのままでも大丈夫だと思う人もいるだろう。
事務局	現在の市の支出であるが、北街区にある自転車駐輪場の南半分約 0.1ha については東日本旅客鉄道からの借地のため借地料がかかっている。検討フローは参考資料 5 のとおりに進めていく予定である。 また暫定利用の話については、参考資料 7 にあるように民間に土地を貸し出し有効活用してもらおう。40 か月の根拠としては、検討フローに沿って事業者選定、設計・工事着手までを考えると 3 年程度は必要となってくるため平成 25 年 3 月末までとした。
古池座長	市がお金を払っているのは 0.1ha の駐輪場の賃料のみであり、未利用地をそのままにしておくのはもったいないので、中央街区約 1.5ha を暫定利用していくこととの理解でよろしいか。
事務局	その通り。
中津委員	土地の問題で借地という表現があったが今後もそのような方向で行くのか。また、グループ七七八の基本プランについては議会で承認を得ているとも思うが、部分的でも全体的でもいいが再活用するのか、もしくは破棄してしまうのか。最後に L R T については凍結といった話があったが、一方で公共交通の東側の拠点としても位置付けているはずである。その点はどう考えるのか。
事務局	借地の事業スキームだが、今後も同じような公民のパートナーシップになるのかについては検討していきたいと思っている。借地ありきではない。グループ七七八の基本プランについては、このような経済不況の中、民間と公共の複合施設がいいのかも

	検討しなければならない。市としては、出店の条件、可能性など民間ヒアリングを行い、相乗効果、機能連携が発揮できる方法で進めていく。またLRTについては、現在地区計画の中で空間として確保している状況である。
古池座長	他にもいろいろ意見があると思うが、今回第1回目ということで委員の皆さまには「駅東口地区にはどのようなまちづくりがふさわしいか」、「どのような公共的機能が必要であるか」といった自由な意見を、自己紹介も兼ねてお話いただければと思う。
石井委員	宇都宮大学の地域共生研究開発センターで産学官連携について研究をしている。今回は産学連携の分野から意見を言わせてもらえればと思う。県内の大学で構成されている大学コンソーシアムでは、学生と企業が出会える場所、活動できる場所といった、ハローワーク的なものが必要ではないかといった意見があった。
林委員	文星芸術大学で教授をしている。今泉地区で育ち、その地区内にある八坂神社というところではいろいろお手伝いをさせてもらい市民と触れ合ってきた。今、再びゼロからのスタートとなったが、もう一度議論できるチャンスを得たと思っている。そこに住んでいる人のぬくもりや愛情を吸い上げて、いい玄関口になればと思う。
安藤委員	「NPO法人まちづくり市民工房」で、いろいろまちづくりについての取り組みをしている。県都宇都宮の顔でもある宇都宮駅東口のまちづくりについて、以前のグループ七七八に縛られることもなく議論ができるはずである。東図書館内に事務局があるため、すぐ近くの駅東口がどうなるかも気になる。個人的にはハコモノでなくてもいいと思っている。
中津委員	住宅等を手掛けながらまちづくりを行っている。駅東口の地域では工業団地だけで10万人もの労働者が働いているが、その割には商業施設がないと思う。また、公共公益施設も不足しているため、例えば観光的なものや産業ミュージアムといったものなども検討していければと思う。
今井委員	私は地元であるが、ここまでくるのに相当の説明会があった。駅東口にこれだけの広い場所、高い建物ができ、今泉地区がどのように変わっていくのかと期待していたが、経済悪化の中、こういう状況もやむを得ないのではないかとと思っている。また、敷地の暫定利用では平成25年の3月までという話も出たが、私はその先までいくのではないかとと思っている。
南木委員	地元の商業会会長をやっている。今泉地区は区画整理等も行っており、田園地帯であった40年前から駅東がどのように変わるか夢を見ていた。この間はいろいろなことがありあまりにも長かった。今は政権交代で予算を切られても仕方ないという雰囲気があるかも知れない。
柿沼委員	コンベンション協会で仕事をしている。多目的ホールは必要だと思う。北関東の玄関口にふさわしい施設をつくってほしい。
須賀委員	宇都宮商工会議所から来た。宇都宮市の目指す目標としては定住人口と交流人口を増やすこと、またネットワーク型コンパクトシティの構築というものがある。交流人口を増やすのならば、県都の顔としてコンベンション、産業ミュージアム等が必要となってくるし、コンパクトシティには市民が気軽に利用できるような生活利便施設、文化機能を配置していくべきだ。そのためには誰もが集まれるよう、公共交通機関な

	どのインフラ整備と一体的に進めて行くことが必要となってくるのではないか。
森本委員	清原工業団地で本業はたばこを製造している。駅東口には緑が広がる開放的な緑地などがあってもいいではないかと思っている。もうひとつは、バスケットのリンク栃木ブレックスの山谷社長が話していたが、アメリカのマディソンスクエアガーデンのようにバスケットやアイスホッケーなどのスポーツができるエンターテインメントを楽しめる施設なども検討の中に入れてもらえればありがたい。
大森委員	J R東日本の企画室というところから来た。ミッションとしては、新駅、自由通路周辺などの人が通るところのまちづくりについて企画をしている。こういった事業は市民・納税者の方に満足してもらえる施設を作ることが必要である。駅の近くは利便性のいいところであり、その期待に応えられるようにしてほしい。
國谷委員	全国的に将来の人口減少の問題がある中で、栃木県も2010年までに人口減少が始まると見込まれる。そのような中、地域振興の交流・連携は市町村間、場合によっては県外といった広い視点でも必要となってくる。宇都宮駅東口は県の玄関口であり、人が一番集まる交流の拠点である。県としてどういうことができるのか、その都度検証していきたい。
荻委員	高校までは宇都宮で育ち、その後13年間離れて4年前に宇都宮に戻ってきた。大通りやオリオン通りが衰退する一方で、駅東が開発されるという話を聞き、市のサービスを受けるだけでなくそういった市の取り組みについて議論をしたいと考えていた。宇都宮はコンセプトもしっかりしていて住みやすいが、足を運ばない人もたくさんいる。同世代、また、働く女性の声を代表できればと思う。
酒井委員	設計事務所で仕事をしている。今回、こういった残念な状況になってしまったが、建築士というよりも市民として意見を述べたいと思っている。子どもにいきいきした顔をしてもらうには、大人もがんばらなくてはいけないと思い今回公募した。仕事柄、箱物を設計する機会が多いが、将来の子ども達のためにもその内容については深く考えなくてはいけない。 また、暫定利用については非常に興味を持っているが、応募のあった3者が、3箇所あるどの場所に応募したのかをわかる範囲で教えてほしい。
古池座長	事務局は可能な範囲で教えることは可能か。
事務局	はい。資料7にある図面で説明すると中央街区の南側に位置する未利用地③に3件が集中した。飲食を中心とした利用やモデルルームなどの提案があったが、現在審査をしている段階であり公表はもう少ししばらく待ってほしい。
古池座長	こういった事業は行政だけで行うと考えが固定化してしまい柔軟性がないといった指摘を受ける場合があるが、今回の様に多くの識者にご参加いただき自由な意見をもらえるのは、これからの地域のまちづくりを良い方向にすすめる上では非常に重要なことであると思う。次回以降も貴重な意見を期待したい。事務局のほうからその他何かあるか。
事務局	今後の日程だが、第2回目の開催は来年2月下旬をメドとしている。
古池座長	以上で第1回宇都宮駅東口地区整備推進懇談会を終わりにする。